

みんなのた場

サークル仲間 地域に根差した文化を震災を乗り越え後世へ

北上文化協会

北上文化協会では、現在10団体57人の会員で運営、市文化協会に所属しています。会長は十三浜甚句保存会、北上三味線クラブで代表を務める山中祐弘さん(81)です。設立は旧北上町時代の昭和62年6月。30年ほどの活動歴です。東日本大震災後は活動の一時休止もありましたが、復興とともに再開しています。

年間を通して多くの催しが行われており、そのうち山野草愛好会は、春と秋



山野草展など北上地区の自然文化を愛する活動を続けている



県の歴史について学んだ会員ら

に展示会を「にっこりサンパーク」で開き、市内外から多くの愛好家が訪れます。十三浜甚句保存会および舞踏会では、昨年7月に同パークで「第5回ふるさと復興支援演芸会」を開催。歌や踊りなどが披露され、参加した地域の皆さんを楽しませました。

また協会としては、昨年11月「第5回歴史探訪」を行いました。協会員、一般参加者計19人で仙台市博物館、松島・瑞巖寺本堂を見学し、

楽しみながら歴史に触れました。

佐藤嘉信副会長は「震災により各団体の活動が思うようにできなかったり、会員の高齢化により活動の維持が難しくなってきたりしている」と懸念します。

今、復興は進み、各団体の活動は徐々に活発になってきています。役員は、さまざまな趣味を通して活動を大切に、協会を運営していければと肝に銘じています。

北上地区は、防災集団移転促進事業で宅地の引き渡し完了しました。各地区のコミュニティが新しく形成されており、それぞれの地域住民の理解を得て、新規会員を増やしていきたいと、復興後のこれからを見据えています。



第30回 鼠径ヘルニアについて

石巻市立病院 外科部長 福山 尚治

【鼠径ヘルニアとは】
「鼠径」部は、足のつけねの部分のことをいい、「ヘルニア」とは、体の組織が正しい位置からはみ出した状態をいいます。「鼠径ヘルニア」は、本来ならお腹の中にあるはずの腹膜や腸の一部が、鼠径部の筋膜の間から皮膚の下に出てくる下腹部の疾患です。俗に「脱腸」と呼ばれている病気です。

【症状】
初期には起立時やお腹に力を入れた時に鼠径部の皮膚の下に柔らかい「はれ」ができますが、指で押さえると引っ込みます。鼠径部に何か出てくる感じがおり、それが次第に小腸などの臓器が出てくるので不快感や痛みを伴ってきます。「はれ」が急に硬くなったり、膨れた部分が押さえても引っ込まなくなることがあり、お腹が痛くなったり吐いたりします。これをヘルニアの嵌頓(かんとん)といいます。急いで処置や手術をしなければ、命にかかわることもあります。

【原因と種類】
鼠径部にはお腹と外をつなぐ筒状の管(鼠径管)があり、男性では睾丸へ行く血管や精子を運ぶ管が、女性では子宮を支える靱帯が通っています。加齢と共に筋膜が衰えてくると、鼠径管の入り口が緩んできます。お腹に力を入れた時などに筋膜が緩んで出来た入り口の隙間から腹膜が出てくるようになり、次第に袋状に伸びて鼠径管内を通り袋状に脱出します。いったんできた袋はなくなり、お腹に力を入れるとその袋の中に腸など、お腹の中の組織が出てくるようになります。これを外鼠径ヘルニアといいます。

腹壁には弱い場所があり、加齢により筋肉が衰えてくると、ここを直接押し上げるようにして腹膜がそこから袋状に伸びて途中から鼠径管内に脱出します。これを内鼠径ヘルニアといいます。外観は外鼠径ヘルニアと変わりません。

そのほかに、鼠径部の下の大腿部の筋肉や筋膜が弱くなって膨らみが発生するヘルニアを大腿ヘルニアといいます。

【なりやすい状況】
鼠径ヘルニアは、乳幼児の場合はほとんど先天的なものです。成人の場合は加齢により身体の組織が弱くなるのが原因で、特に40代以上の男性に多く起こる傾向があります。乳幼児でも中高年でも鼠径ヘルニア患者の80%以上が男性ですが、これは鼠径管のサイズが女性は男性より小さく、比較的腸が脱出しにくいと考えられています。また40代以上では、鼠径ヘルニアの発症に職業が関係していることが指摘されており、腹圧のかかる製造業や立ち仕事に従事する場合に多く見られます。便秘症、肥満、前立腺肥大、咳を伴う呼吸器疾患、妊娠等も要注意です。もし上記に当てはまる症状がある場合は、一度外科の受診をお勧めします。



55 長寿のひけつ 三浦トヨノさんのご足跡

三浦トヨノさんは大正7年4月8日に稲井に1男4女の次女として生まれました。女学生の時、父を亡くし、弟も幼かったため家業の米穀店を継ぐために結婚。2男3女に恵まれました。

夫を戦争で亡くした後は、米作りや牧山で茶摘みなどをして懸命に働き、5人の子どもを女手一つで育てました。その働きぶりを見ていた男性と再婚。現在は男性との間に授かった弘さん(66)夫婦と3人暮らし。子どもは6人も元気で、孫14人、ひ孫27人、やしゃご10人がいます。

長く市内の病院で調理員として勤務。退職後は石巻中央公民館「つくも大学」で社交ダンスなど多彩な趣味を楽しみました。現在は、週2回のデイサービス通



自宅で祝詞を受け取った三浦さん。今でも背筋がびんと伸びています



地元食材生かし 「大平うどん」作り

食生活改善推進員連絡協議会石巻分会が地産地消の推進と会員の交流を図るため、2月23日に研修会を実施しました。

地元のちぢみほうれん草などを使用した「大平うどん」や、ほか2品を調理し、情報交換しながら試食しました。今回の内容を参考に、地元の食材を生かした食育活動に積極的に取り組んでいきます。



健康推進課 (内線2617)

3/12 石巻 笑顔はプライスレス!!

第3回だがしの日イベント in 石巻



Topic of town まちの話題



毎年3月12日は「だがしと笑顔の交換日」。当日はゲストランナーの谷川真理さんと坂本直子さんによる「だがしリレー」と聖火台点火、会場の総合運動公園では「ソフトグライダー選手権」などが開催されました。リレーで立ち寄った市内4つの幼稚園では、園児たちが走り方をレクチャーされたほか、駄菓子をもったり、ちんどん屋さんの演奏と一緒に歌ったり、紙芝居を楽しんだりで大満足の様子。その後、会場では子どもたちに袋に入りきれないほどの駄菓子が配られ大盛り上がり。子どもだけでなく、周囲の大人たちにも笑顔が広がりました。



3/31 雄勝 花と緑の力で新たな出発

新・雄勝ローズファクトリーガーデン

雄勝地区の玄関口を彩る雄勝ローズファクトリーガーデンの移転が完了し、お披露目&花植え会が3月31日、地区住民をはじめとする多くの来場者やボランティアなど、総勢250人が参加し、盛大に開催されました。



参加者が鮮やかな花々を植えた後、ダ・カーポのライブや地元の方々による料理のお振る舞いもあり、終始にぎやかに時間が流れ、温かく見守られながら新たな1歩を踏み出しました。

4/1 河北 二子団地で竣工式典

防災集団移転促進事業

防災集団移転促進事業の竣工式典が4月1日、二子団地の中央公園で開かれました。昨年末に372戸の宅地供給を終えた二子団地は、半島沿岸部の中で最大の復興団地であり、多くの住民にとって待望の完成となりました。



式典後にはイベントが催され、来場者に河北名物のあん餅が振る舞われたほか、大谷地小6年生による伝統の「銭太鼓」の披露もあり、二子団地完成に華を添えました。

3/24 桃生 和紙でほのぼのの桜づくり

石巻桃生ちぎり絵サークル

石巻桃生ちぎり絵サークルの制作活動が3月24日、桃生総合支所で行われました。



「和紙が好き・ちぎり絵が好き・仲間が好き」を合言葉に活動している、会員11人中8人が参加。

「桜」を題材に和気あいあいとした雰囲気の中、見た人が喜ぶ作品を目指し、制作活動に取り組んでいました。

代表の熊谷良子さんは「世界文化遺産に登録されている和紙を扱えていることが誇りです」と話していました。

3/11 河南 沖縄の心 被災地に届け

震災復興支援公演

東日本大震災から7年目の3月11日、沖縄伝統の琉球舞踊を伝承する「紅倫の会」が遊楽館で復興支援公演「舞へのいざない」を行いました。



沖縄の人達が幾多の逆境を乗り越えてこられたのは、琉球舞踊などの民俗芸能を心の支えにしてきたからだと言われています。今回は、皆さんがよく知る「エイサー」とは異なり、日常生活を表現した、ゆったりとしたテンポの踊りが披露され、見る人の心を癒してくれました。

4/5 牡鹿 2年ぶりミンククジラ捕獲へ

調査捕鯨出港式

ミンククジラの資源管理を主とする本年度の沿岸調査捕鯨が4月5日から開始されるのに伴い、石巻市鮎川漁港で出港式が行われました。2016年以来2年ぶりとなる今回は、関係者約100人に見守られ、地元の2隻を含む4隻の小型捕鯨船が出港しました。



今回の調査は、今月下旬まで鮎川沖で実施され、その後、八戸沖(5月上旬から下旬)、釧路沖(9月上旬から10月上旬)へ北上し、ミンククジラ計80頭の捕獲を目指します。

4/3 北上 餅まきで拠点施設の完成祝う

相川地区コミュニティセンター開所式

4月3日に相川地区コミュニティセンターの開所式が行われ、地元住民および関係者約80人が出席しました。



施設は、平屋建て330.72㎡で、管理室、会議室の他、多目的ホールがあります。式の後には、餅まきと施設の内覧が行われ、施設内部では十三浜産ワカメのしゃぶしゃぶが振舞われました。また敷地内では、団体を通じて寄贈された桜の披露もあり、来場者の方々が記念撮影をしていました。